

みちの会だより

第4号
1995年1月7日発行
地域開発みちの会

初春のお慶び申し上げます

1995年



女性のパワーを地域に

顧問 福田志津枝



いま、入学試験シーズン真っ盛りである。私の勤務している大学でも、多くの受験生が挑戦している。私は面接試験で、どんな目的でこの科を選んだかを尋ねると、殆どが学校で受験に備えて練習した通りの判で押したような答えしかかえってこない。つまり彼らにとっては大学に入ることだけが目的で将来自分はどんなことをしたいかといったことまでは考えていないのである。彼らはただ他人の引いたレールの上をひたすら走っているだけのように見える。

それにたいして、社会活動をしている女性たちのなかには、なかなかのパワーの持ち主が多い。先日、愛知県の女性人材養成事業の研究員の方達と大阪、神戸へ2泊3日の研修旅行に同行したが、自分はどうか生きたらいいか、ボランティア活動はどうあるべきか等について毎晩遅くまで、真剣な議論が展開されていた。戦後生まれの人が多く、幼児をお姑さんに預けて参加した人や小学生の面倒を夫に任せて参加した人もいた。それぞれに「なにかをやりたい」「なにかをつかみたい」という思いを持っていた。また、メンバーのなかには、大学の社会人入学試験に挑戦しようとしている人もいた。それぞれに自分の考えをしっかりと持ち、それを実行に移す行動力も持っているのである。

これからはみちの会の方々もこうした人達と連帯し、ますます御健闘されることを心より願っています。

日帰り見学研修会

平成6年11月10日

参加者26名

滋賀県立婦人センターにおいて ひまわり会との交流会

好天に恵まれた小春日和の晩秋、婦人の殿堂にふさわしい色調の瀟洒な景観の滋賀県立婦人センターを訪問しました。ひまわり会の皆様のお出迎えで会場（大ホール）に案内されました。まず婦人センター次長林健次郎様からセンターの説明を受けました。

- * センターは昭和61年に完成。多くの職員を抱え、センターがすべて企画設定するのではなく、利用者自ら企画、行動してもらうよう、ボランティアへの呼びかけをし共に活動していけるよう考えている。
- * 婦人の自主的な学習・交流をはじめ、さまざまな活動の拠点として活用してもらい、相互の連帯を一層深めながら、その資質の向上を図る場を提供。また婦人ばかりでなく誰でも利用できる施設である。

次にひまわり会会長梅森敬子様のおあいさつの後、杉原恵美子様からひまわり会の説明を聞きました。

- * 婦人センター誕生とともに昭和62年に、ボランティア養成講座を受けた11名で施設ボランティアグループひまわり会が発足した。現在31名。年齢は20代～70代で男性1名も含まれての活動。
- * 明るく、たくましく、ひまわりの様に活動しようとひまわり会と命名。
- * 活動としては、講演会の司会、会場設営、託児、施設案内、新聞のクリッピング、清掃などしているが、平成3年から講座、図書、広報、託児の4つのグループを作りそれぞれに所属して活動している。
- * 事業の運営費は切手、ユーパック等の販売の郵便業務や公衆電話の維持、管理業務で賄っている。
- * 婦人センターの運営審議会委員に、利用者代表としてひまわり会から1名参加。

続いて、香り高いコーヒーをいただきながら『ひまわり会』と『みちの会』の交流が始まりました。ひまわり会とみちの会は、形態は違っても、女性問題を学んでいるという共通項があり、話し合いのテーマはそこに置きました。

みちの会 施設ボランティアであるから、センターとボランティアとの関係はどうか。問題が起きた時どう対応しているか。

ひまわり会 余り困ったことはない。ボランティアのほうが経験が長く、分かっていることが多い。センターの所長、次長のトップが短期間で変わるため、最初はごく、しゃくしているが、話し合いによって分かってもらえる。8年間の活動には山あり谷ありで努力した。

ひまわり会 みちの会に入ったことで自分がずいぶん変わったと思われるか。

みちの会 高齢化問題を取り上げたとき、自分の事として考えるようになったが、変わったかどうかは他人様に答えることではない。

ひまわり会 実績書は自分たちの手で作るか。

みちの会 主に役員で作っている。

ひまわり会 企画はどのようにしているか。

みちの会 総会の終わった後、全体会を開きその年にふさわしいテーマを決め、それに添った活動の内容を企画していく。

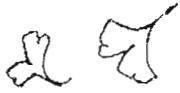
交流会を終えて、センターご自慢の緞帳を背景に、ひまわり会の皆さんとご一緒に記念撮影を済ませ、12時からひまわり会の方の案内でセンター内を見学をしました。特に託児グループの牛乳パックで遊具作りを平成4年～6年までの2年間失敗を何度も繰り返し完成されたテーブルといすは頑丈な出来栄で見事な作品でした。限られた時間内の交流会とセンターの見学でしたが、これからの活動の参考にしたいものです。



託児室にて



交流会



見学研修会の感想

(原文のまま)



- * ひまわり会との交流、会館の見学、美味しい食事、瑞龍寺からの紅葉とても素晴らしかった。感謝して1日を終えたいと思います。
- * 企画をして下さった役員幹事様ありがとうございました。
- * 稲の切株から再び穂が実っていた。茶屋→茶寮の意味 茶懷席の意？
- * みちの会は何ぞやと社会参加で自分探しをしている方からの質問があった。
- * 家庭（主婦）の忙しさから、今日一日解放され、得ることの多い楽しい時間を過ごすことができました。“お寺”で「幸せは急がないで」の本に目が留まり買ってきました。真っ赤なもみじを拾ってきました。ハガキの片隅にはってお友達に出すのを楽しみにして……。幹事さんいろいろご苦労さまでした。
- * この旅で滋賀県近江八幡市の知らなかったこと、良さが良く分かり有意義な一日でした。ひまわり会も素晴らしい活躍をしているのにびっくりしました。見習わねばと思います。
- * 生き生きと活躍していらっしゃるひまわり会の皆さんとの交流は意義深いひとときでした。食後町並みの散歩では、古き良き物をいろいろ見せて頂きました。またじっくりと見学に来たいと思っています。
- * 好天に恵まれ良い一日でした。ひまわり会との交流もう少し時間が・・・
- * 小春日に 誘われのぼる 瑞龍寺
秋の日の 研修の旅 意義深く
- * 女性会館の創立とともに発足した会館のボランティアグループという特殊性に驚きました。ホールが広いので声が飛んでしまい言葉の一つ一つが聞き取りにくくて残念でしたが会館内はこの目でしっかりと見学できました。近江路も遊歩道を散策し資料館にも入り、近江商人の町を少しだけ覗くことができました。晴天に恵まれ秋の一日をゆったりした気持ちで過ごさせて頂きました。
- * 柿熟れし 近江路行けば 白壁の 三階建の 土蔵の見ゆる
- * 役員の方お疲れ様でした。瑞龍寺ではゆっくり時間があり好天の中で紅葉を楽しみました。女性会館でもう少し時間を取りたかったと思いました。
- * 小春日和に恵まれて楽しい交流ができましたことを嬉しく思っています。
- * 「国連婦人の10年」の後すぐ立てられたあのセンターに滋賀県の女性のパワーを強く感じました。また他県の女性たちの交流を通して学んでいく場も今後作って下さい。今日は本当に役員さんありがとうございました。
- * 大変実り多い研修会でした。ひまわりの会の前向きのボランティアの姿には感銘しました。大変良い企画ありがとうございました。



愛知県国際交流女性海外派遣に参加して

00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00

タイを訪ねて

青木 圭子

愛知県の国際交流女性海外派遣に今年は60才まで応募できるということを締切の3日前に耳にして、急遽申し込み手続きをし、思いがけなく海外派遣に参加させていただくことができました。

タイやインドネシアの国の地方の人々と接したいという願いで、初日にタイ北部のチェンマイまで飛びました。山岳民族生活向上センターは教育機会のないカレン族の青年男女たちにキリスト教を布教しながら、文化や衛生などを教え、職業訓練をさせて3年後に指導者として村へ送っているところでした。チェンマイをさらに北へ向かい、ガールガイド・チェンライ（エイズの多い所）支所を訪ねました。大会が行われており、少女たちには性教育をしていました。



この地方は美人が多く、6年の義務教育を終えた少女たちが何もすることなくふらついていると、売春の斡旋業者に誘われてしまうので、少しでも早くこういう場所へ出向かせて教育や職業指導をしないといけないと団長さんはおっしゃっていました。



バンコク市内には日本の企業の看板が目立ち評判の車のラッシュにも出会いました。女性問題国家委員会への訪問は全く予想していなかった場所でした。首相官邸内にあり、総理大臣を委員長とした国レベルの最高の女性組織で、女性のための立案や評価などを行っており、法律のことや性差別のことなどが話題となりました。女性局長から、もし日本で困っているタイ人を見かけたらタイ大使館の方へ連絡がしてほしいと願いが出されました。

タイ国は80年代後半から高度経済成長が続き、ますます都市と農村との貧富の差が拡大しているということです。工業化と観光産業化が進む中で農業公害、森林破壊、エイズ患者の増加、さらに女性や子供が商品として取り引きされ輸出されるという深刻な問題を抱えているタイの現状を少し知ることができました。

—— 一番嬉しいことは、お米のあること、みんなが一緒にいられること ——

東北タイの子供

インドネシアを訪ねて

渡辺 順子

10月20日 インドネシア スカルノ・ハッタ空港着。

インドネシアは夫が赴任していた関係で12年ぶりの訪問です。大変懐かしく思うと共に、その発展ぶりに驚きました。インドネシアの表玄関であるジャカルタは、欧米風の高層ビル群と高速道路網が伝統的なインドネシアの街並と対照して、独特の雰囲気をかもしだしていました。ブーゲンビリア、プルメリア等、南国の花の咲く緑の美しい都市です。インドネシアが政治、経済、産業などあらゆる面でめざましい発展を遂げたことを反映して、ジャカルタも国際都市へと急成長しました。

*多民族国家 300 種以上の民族が雑居するインドネシアはイスラム教徒が人口の88%以上を占めているが、キリスト教、ヒンズー教、仏教など多種多様。

「多様性の中の統一」がインドネシア民族のモットーになっている。

*インドネシア政府は1978年、国の政策の1つとして、女性政策が盛り込まれた事を機に、副大臣クラス的女性担当ポストを作り閣僚とした。

1983年には格上し、女性問題担当は国務大臣となる。同時に、大統領令に基づき作成された女性問題担当大臣の機能は、補佐官のほか、4人の副大臣を置き

① 家族・家庭

②女性活動者

③ 女性の教育

④生活・文化・環境

を担当する、N・G・Oとの組織的つながりをも組み込んでいる。

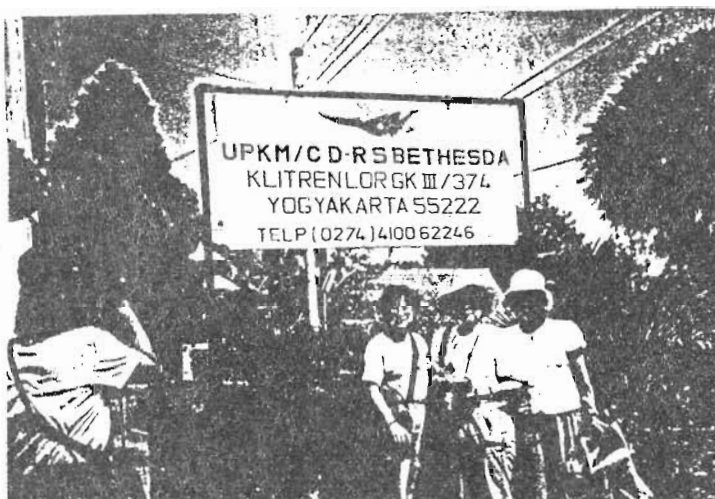
10月21日

午前 ジョグジャカルタ市のガジャ・マダ大学の元教授(Dr・サストロアミジョジョ)が所長を務める太陽エネルギー研究所を訪問しました。

化石資源国でありながら、近い将来の枯渇に備え、赤道直下国の利点を活かした太陽エネルギーと風力利用を研究しています。所長以下所員の手作りの創意工夫された実験装置に興味を持ちました。ここでも文明社会と自然環境の調和が目標に掲げてあります。

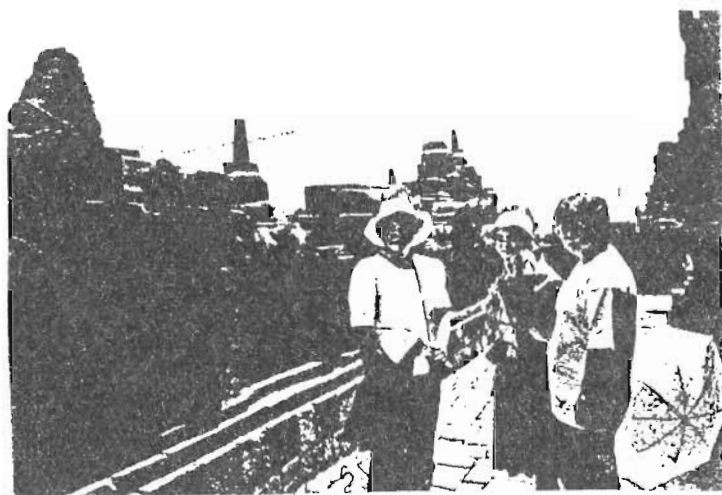
午後 CD Bethesda訪問

(ベゼスタ医療機関の地域開発部門) 地域での一次医療と、一次医療援助、経済と人材の援助の二つの活動をしている。病院で患者を待つのではなく、地域に出かけて行って問題がどこにあるのかを探し彼らはなぜ病気になるのか調査する。最も貧しい地域が最も医療を必要としている。その地域にはスタッフが派遣されている。



10月22日 ボロブドゥール遺跡見学 ボロブドゥール寺院(丘の上の寺院の意)はジョグジャカルタ市の北西約42Kmに位置する世界最大、最古(7~8世紀)の仏教遺跡です。19世紀

に発見されるまで火山灰に埋まっていたが国際協力によって修復された。一層から九層までの石壁一面に彫刻された独特のレリーフは実に見事である。



10月23日 独立記念塔 (Monas)

National Monument 見学。

今回私達が訪問したタイ、インドネシア両国に共通する事は、多民族、多言語社会に加えて、貧富の差が著しいという問題を抱えています。人々は私たち同様に、黒い髪と瞳を持ち、とても親近感がありました。発展途上国の大きな勢いが感じられる10日間でした。訪問した先々で、私達を暖かく迎えて下さった人達に心から感謝申し上げます。今日も新しい異国の友人にクリスマス・カードを送りました。私たちの交流は今、始まったばかりです。

★★★ 一口メモ ★★★

タイ (Thailand)

国名・・・タイ国
国土面積・・・513,115 Km² (日本の1.4 倍)
人口・・・5,833 万人 (1993年12月末)
政体・・・立憲君主国
通貨・・・バーツ 1 バーツ=約4 円
言語・・・タイ語
宗教・・・仏教 (95%)

インドネシア (Republic of Indonesia)

国名・・・インドネシア共和国
独立・・・1945年8 月17日 独立宣言
国土面積・・・1,948,732Km² (日本の約5.15倍)
人口・・・1 億9117万人 (1992年現在)
通貨・・・ルピア 1 円=20ルピア
主要言語・・・インドネシア語
国連加盟・・・1950年9 月28日

近藤 京子

全国的な組織の（社団）国際婦人教育振興会（国婦振）では女性問題、女性教育を視点においた海外視察研修団を毎年派遣しています。今回、アメリカ・カナダ班に参加しましたので、ボランティア活動の先輩国の最近の傾向や特徴、学んだことなどをご報告します。

アメリカやカナダのボランティアは、歴史そのものがコミュニティの中の助け合いから始まっていて、ボランティア精神が社会の中に組み込まれていると言えます。このような風土は病院や老人ホーム、女性や子どもを暴力から守るシェルター等で公立、民間にかかわらず地域ぐるみの活動に表れていたり、ボランティアな視点をいたるところに感じました。

オタワの小学校を訪問したとき、教室の後ろで採点をしている女性がいて、彼女はクラスの母親で、時間を作ってボランティアに来ていると聞いたときは少々驚きました。日本ではどうでしょうか。テストの成績に一喜一憂する教育ママたちがそんなことを黙っているはずありません。

さて、『すべての破壊は家族の崩壊からはじまる』とは社会学者の言葉ですが、離婚者の多いアメリカで取り組まれている『ファミリーマターズ』の活動を紹介します。ここで言う家族とは、伝統的な血縁家族だけでなく、離婚者や里子、高齢者や孫、親戚や他人などで、家族としてボランティア活動の単位となります。たとえば二人の子どもを持つシングルマザーは、仕事のかたわら施設の事務の手伝いをして、息子は高齢者のためのレクリエーションを担当し、幼い娘は老人ホームで孫のいない老人たちの孫代わりを務めるといった具合に、同じ場所で家族がそれぞれ違ったボランティア活動に参加してみたり、いつもは離れて暮らしている姉弟が、ホームレスのための給食サービスをするスープキッチンで一緒に活動するケースなどがあります。これらの活動を通してよその家族のことを知り、家族間のコミュニケーションや絆が強まることがねらいなのですが、もっと大きなところでは『どうし



ニューヨーク国連本部の広場にあるもので人々の平和を願う気持ちが結ばれた銃口に表れています

たら我々はアメリカの家族を増強し、また同時に我が国の社会問題に対しても応じることができるか・・・』（ファミリーマターズのパンフレットより）というアメリカ連邦政府の政策から発しているようです。日本のボランティアは家庭の主婦層が多いのですが、オタワでは20年前から主流が婦人層から移住してくる失業者に代わってきています。失業率11%の社会的背景

がここにも影響しているのですが、日本と大きく違うところは、ボランティア活動のキャリアが、就職の際有利に働くということです。ですから、彼らは失業保険で生活を支えながら、一方で目ざす仕事をボランティアで働いて実績を積みます。



高齢者のボランティア活動に話を向けます『シニア シェアリング イン エデュケーション』と呼ばれる事業は、定年退職した60歳以上の高齢者たちが、小中学校に出向いて教師の補助をしたり、子どもたちに本を呼んで聞かせるなどの活動です。独りぼっちの高齢者にとっては生きがいとなり、同時に社会貢献になる。また人生経験の豊かな先輩から子供たちは多くのものを得るという、双方にとってメリットがあります。首都オタワは政府系の仕事に就く若い家族が多く、彼らは高齢

者との接触が薄いという問題があるので、この世代間交流が果たす役割は大きいということでした。高齢者というとどちらかと言えば社会サービスの受け手としてのイメージが強いのですが、ここには受けてから担い手という高齢者の変化を感じます。この辺りに日本の高齢者対策のヒントがあるように思いませんか。つまり高齢者を『問題』としての側面からばかり捉えるのではなく、大切な人的資源として捉えるという発想です。

アメリカ・カナダ研修ではいくつかの発見をしました。たとえば無償のボランティア活動を社会貢献として大きく強調し、経済的な面から評価する見方です。（日本ではボランティア活動をお金に換算するなんて…とどちらかといえば“はしたない”という空気が感じられますが）そんな評価の一つを挙げてみますと『1992年のバージニア州では平均4.2 時間ボランティア活動をした。これは一般労働者の 900万人分となり、普通に働く時間に換えると 2億5,000 万時間となる。またサービス面を換金すると1,760 億ドル得たことになる。普通の労働者は時給5 ドルであるが、ボランティア活動は時給にすると12ドル96セントになる …』。

ボランティア活動の先輩国で出会った人々から『主体的にアクションを起こす』そこにボランティアの持つ本来の意味があるということを教えられました。

どんなこともまず『主体的なアクションから始まる』という収穫は、私の生き方や地域のボランティア活動を通して、これから裏付けていこうと思います。



美浜町にも「美浜女性の会」が！

齊藤 悦子

「みちの会」は発足してから早、8年目を迎えました。みちの会発足当時、美浜の女性の資質と社会的地位の向上を願って、初代会長と共に当地会員が美浜町行政へその名をアピールして下さいました。その後、毎年各種女性団体交流会を開催する度に、会員が何度も町行政へ伺い、制度化した「女性の会」の発足をお願いしてきました。そのかいあって、本年度「美浜女性の会」が発足することになりました。

今、その準備委員会が、5期生の野田うめ子さんを代表者としてスムーズに進行しています。初回は13団体の方々が集まって、各々の団体の情報交換をし、関係を密にする大切さや必要性の話し合いをしました。どんなことでも、始めるときはいろいろな意見の違いがあります。先の心配ばかりするのではなく、おたがいが納得するのに時間をかけ、前向きにプラス思考で物事を進めていかなければと思います。また発足したらお互いに、足を引っ張りあうのではなく、自分の能力を生かし、相手の能力も生かし、認め合うことが更に女性の資質の向上になることだと思います。

私自身も、みちの会で勉強させて頂いたことを少しでも地域のお役に立てればと思っています。



生ゴミ減量で市民ネットワーク

山本 隆子

草の根のネットワークについて学習するために「めだかの学校」を発足して5年になります。“ネットワークとは”から勉強が始まり、ネットワークにとって大切なこと等々、講演会、発表会、体験学習を行いました。挫折した仲間がいたり、一緒に学習したいと言ってくれる仲間がいたりいさまざまなことがありました。

昨年の学習会では、今までの学習の結果、人材育成がすべてに大切であるということが分かってきましたので、浜松市より（株）日管の社長、三輪信一氏をお招きして「人材育成は地域発展のかなめ」と題して講演をお願いしました。そのお話の中で、何にしましてもリーダーの行動力、実践力が人材を作る。口だけ、考えだけの会社は実績が上がらないと、体験、ご自身の実践を通してのお話には私は奮起しました。今年はまず自分のまわりから自分のできることで実践しながらネットワークをするために生ゴミの減量に挑戦しました。生ゴミを不要なものとして、流しの側に置いた密閉容器に入れ、パワーのある良質な堆肥とするEM活用（有効微生物群）アスパを振り入れます。一週間はゴミだしもなく分別も自然にでき、その上その生ゴミが良質な堆肥となり、農薬や化学肥料を使わないでも作物栽培や花作りができるというものです。

アスパ倶楽部として3月から活動を始めました。9月までの実践を中間報告としてまとめてみました。

生ゴミ減量を実践している人635名（これは東海市世帯数の1/50）

減量数 約100トン焼却費用350万円の税金の節約となりました。

中間報告は、市長、環境部長、市議会環境委員に出しました。このことに対して来年度に予算がついたと聞きました。

市民の責任を全うするために、きめの細かい市民学習会を行うことを提案し、このことに頑張り前進していこうと思っています。

———— ‘94あいち女性のつどい ————
西暦2000年に向け、男女平等社会の実現をめざして

11月21日、鶴舞の県勤労会館で、「'94 あいち女性のつどい」が開催されました。開会のセレモニーでは、女性総合センター（仮称）の愛称募集で優秀賞に選ばれた“ウィル愛知”の作者、村田氏の表彰が行われました。続いて作家の落合恵子さんの「いま女性たちは、1994」のテーマで講演が行われました。

落合さんは、自分の小説の読者・51才の女性からの、77才の老婆の生きざまを書いた手紙を披露。女だから、嫁だからと忍の一字で堪えてきたそれまでの態度を一変し、村の寄り合で発言するようになった話とか、明治11年に高知の楠瀬きたさんが夫の死後戸主となったが、選挙権を持つことを拒否され、戦い続けた話などを披露して、なにかをはじめるに遅すぎる季節はない。闘うことなくして素敵な人生など訪れるはずはない、と強調。ともに男女共同参加型社会の実現をめざして頑張ろうと結ばれました。

このあとデュークエイセスが新曲を交えた童謡や、唱歌、クラシックメドレーなどをすばらしいコーラスで楽しませてくれました。

鈴木 定江

平成6年度 愛知県婦人文化会館「女性のつどい」に参加



11月26日（土）「女性のつどい」地域学習グループ交流会「学びが家族を変える」にみちの会より3名出席した。

参加学習グループは22団体70名。発表は地域開発みちの会を含む4グループ。

○活動のきっかけ。

○家族がどのように変わったか。

○これからもっと活動しやすくするためには家族がどう対処したらよいか。

上記について活動が報告され、それぞれの会の現状やマンネリにならないようにする悩みなど、真剣な意見交換が行われた。

助言者の竹市氏（男性）は

①地域活動に男性も引き込んでいく。

②家族でどういう活動がしたいか、学びたいかをよく話し合う。

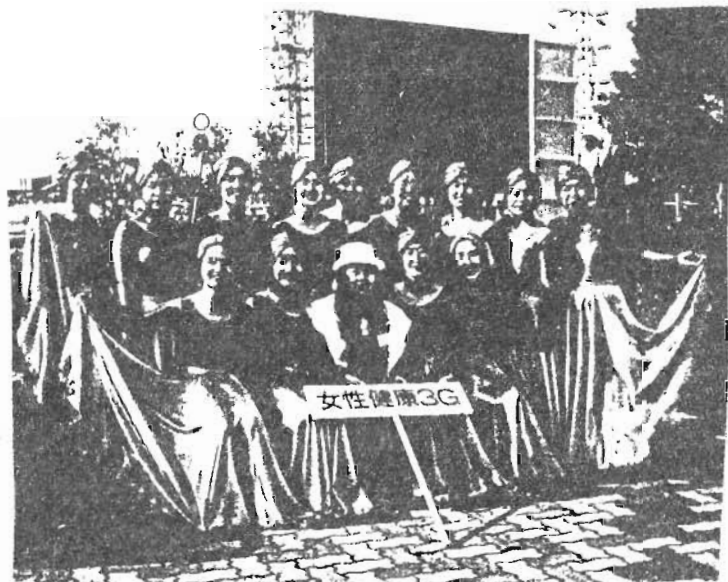
③政治、社会環境、身の回りのことをしっかり話し合う。

この3つをこれからの活動に出し合っていくことが家族を含めた社会の活性化、参加につながると締め括った。

（星 利子）



第49回国民体育大会
いい汗キツッチノ生き生き愛知
わかしやち国体
第30回全国身体障害者スポーツ大会
ゆめぴっくあいち
あなたがタッチ心のバトン



——参加して—— 戸田幸子

晴天に恵まれ大会が開かれました。私達女性健康体操の団体(600人)は県から6団体が選ばれた団体です。沢山の団体の代表として参加。出場させて頂ける事に感謝し、誇りを持って練習に望みました。2年間の練習の中で、夏の炎天下での何時間もの統合練習では気分の悪くなる人も幾人か出て、大変厳しく辛いものでして、しかしその大変な練習を何度も経ても団体の協調性が一層高まり素晴らしい演技に導いていただけと信じておりました。国体の開会式は天皇陛下、皇后様ご観覧の基に、ゆめぴっくあいちでは秋篠宮様の基でオレンジ軍団として演技で行事はとて嬉しく誇りに思います。有空の下で音楽に合わせて思う存分楽しく踊れる事は、生涯の幸せと思いました。ゆめぴっくあいちでは色々な身障者の方々の演技や元氣張りを目の当たりにして健康な自分がとても羨しく感謝致しまして。ありがとうございます。

——みちの会だより3号の訂正とおわび——

- P 2 最後の続き (ようで) す。しかし、テレクラの中の中年男性の暗躍ぶりを見聞きするにつれ、性欲はたっぷりあるように (思われます。) アンダーライン部分を入れてください。
- P 5 下から7行目 一体間 → 一体感
- P 7 2つ目のA 母子未着型 → 母子密着型
- 以上訂正をしおわびいたします。

《編集後記》

北風が肌を刺す季節。健康こそ幸せの基盤です。風邪など引かれませぬよう。

皆様から原稿をいただき第4号も無事発行することができました。御礼申し上げます。この号を持ちましてみちの会だよりは終了します。この会報が、とても良い企画だとの皆様のお声を聞き大変嬉しく思い、また励みになりました。ご愛読ありがとうございました。担当者一同心から感謝申し上げます。

担当者

鷹羽津代 ☎0562-47-2409

星 利子 ☎052-601-2158

水上規子 ☎0569-35-2185

戸田幸子 ☎0562-84-1771

阪野信子 ☎052-892-9258

森田ひろ子 ☎0569-72-0898